

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第4週の発生動向

□ 全数報告の感染症（4週までに新たに届出のあったもの）

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 5 例。3 類感染症：報告なし。
- 4 類感染症：A 型肝炎 2 例。
- 5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症 2 例、侵襲性肺炎球菌感染症 4 例、播種性クリプトコックス症 1 例、百日咳 2 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等	
2類	結核	宮崎市	0~4歳	女	無症状病原体保有者	—	
			80 歳代	女	肺結核	咳、痰、胸痛、呼吸困難	
		都城	80 歳代	男	結核性胸膜炎	胸水	
		小林	80 歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱、呼吸困難	
4類	A型肝炎	宮崎市	20 歳代	女	—	全身倦怠感、発熱、食欲不振、肝機能異常、吐気、嘔吐	
			20 歳代	男	—	発熱、黄疸、肝機能異常	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	宮崎市	80 歳代	男	—	—	
			80 歳代	男	—	肺炎	
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60 歳代	女	—	頭痛、発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症	
			都城	50 歳代	男	—	全身倦怠感、意識障害、肺炎
			延岡	70 歳代	女	—	発熱、全身倦怠感、菌血症、腰部痛
			小林	60 歳代	女	—	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎
	播種性クリプトコックス症	都城	30 歳代	男	—	頭痛、発熱、項部硬直	
			延岡	10 歳代	男	—	持続する咳
百日咳	日向	10 歳代	男	—	持続する咳、嘔吐		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 4,195 人（定点当たり 79.3）で、前週比 77%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

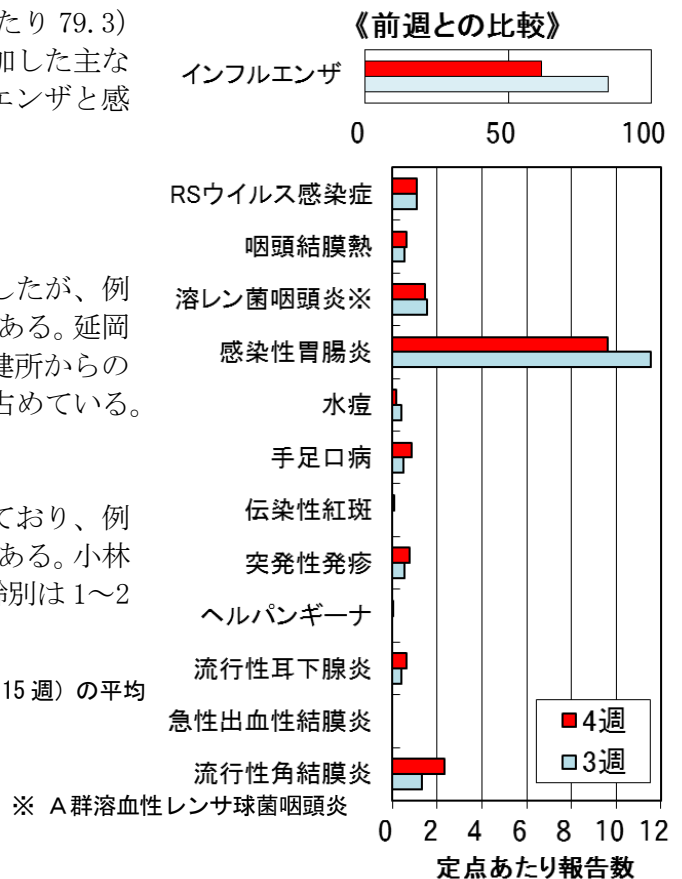
【インフルエンザ】

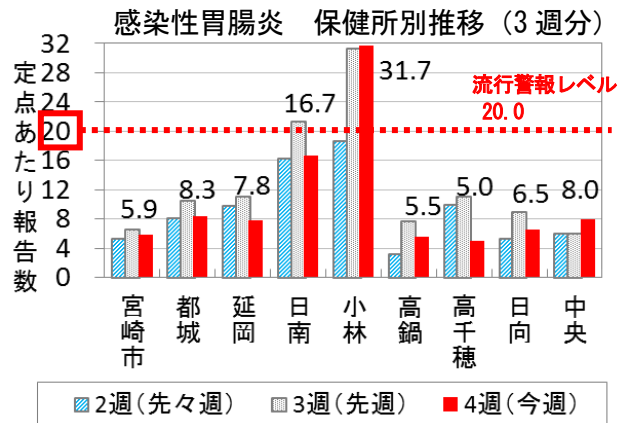
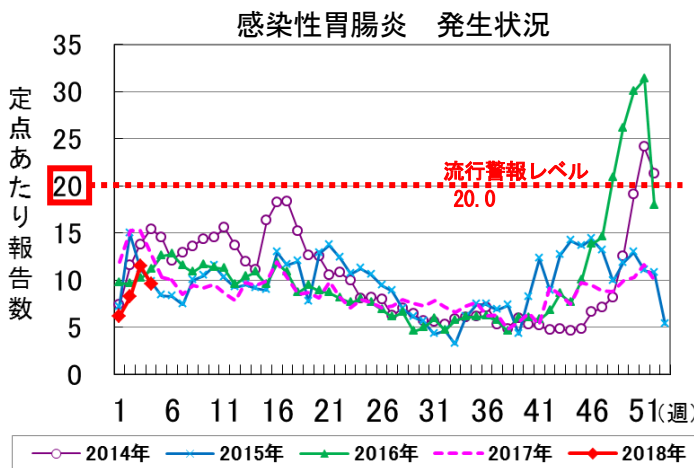
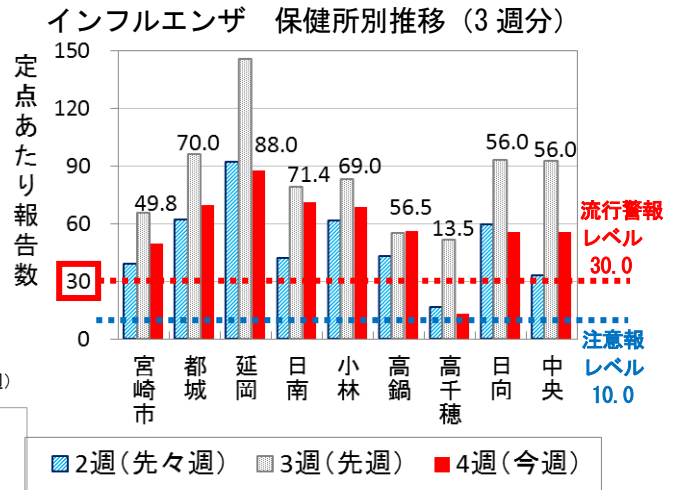
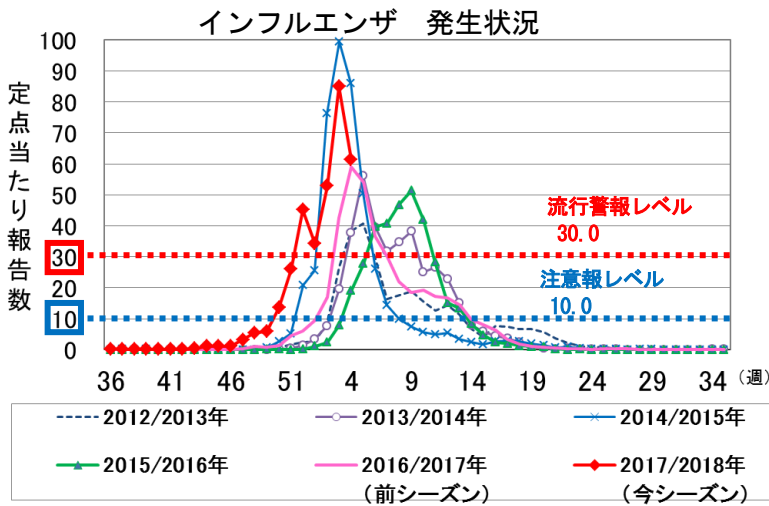
報告数は 3,629 人(61.5)で、前週比 72%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (44.4)の約 1.4 倍である。延岡(88.0)、日南(71.4)、都城(70.0)、小林(69.0)保健所からの報告が多く、年齢別は 10 歳未満が全体の約半数を占めている。

【感染性胃腸炎】

報告数は 346 人(9.6)で、前週比 83%と減少しており、例年同時期の定点当たり平均値* (12.7)の約 0.8 倍である。小林(31.7)、日南(16.7)保健所からの報告が多く、年齢別は 1~2 歳が全体の約 3 割を占めている。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均





★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス) :

宮崎市保健所から1例報告があり、0~4歳であった。なお、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(49.8)
都城	インフルエンザ(70.0)
延岡	インフルエンザ(88.0)
日南	インフルエンザ(71.4)、流行性耳下腺炎(6.7)
小林	インフルエンザ(69.0)、感染性胃腸炎(31.7)
高鍋	インフルエンザ(56.5)
高千穂	インフルエンザ(13.5)
日向	インフルエンザ(56.0)
中央	インフルエンザ(56.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

流行注意報レベル基準値

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年1月29日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)	20歳代	男	不明	排尿痛	尿	2018.1.23

薬剤耐性菌

同定細菌名(遺伝子型)	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Citrobacter koseri</i> IMP-1型(+)	60歳代	男	2017.12.25	中耳炎	耳漏	2018.1.17

60歳代男性の耳漏からIMP-1型のカルバペネマーゼを産生する *Citrobacter koseri* が検出された。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症は2014年9月19日から5類感染症として届出対象となっており、当所では今年度から届出のあったCREに対しプラスミド性カルバペネマーゼの遺伝子検査を実施している。今回検出されたIMP-1型は国内型と呼ばれ、比較的国内に多い型である。ここ数年、CREは世界的に増加しており院内感染事例の報告が多数ある。耐性遺伝子はプラスミド上に存在し菌種をまたいで伝播するため施設等での感染対策が重要となる。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
A型肝炎ウイルス (遺伝子型 IA)	20歳代	男	2018.01.11	A型肝炎、38.6℃、関節痛、筋肉痛、上気道炎、 肝炎、胃腸炎(嘔気、嘔吐)、黄疸、肝機能障害	便	2018.01.17
A型肝炎ウイルス 再掲 (遺伝子型 IA)	20歳代	女	2017.12.31	A型肝炎、39.0℃、嘔気、嘔吐、黄疸、肝機能障害、 肝炎	便	2018.01.17
インフルエンザウイルスAH1pdm09	40歳代	男	2017.12.25	インフルエンザA型、38.0℃、頭痛、 上気道炎(咽頭炎)	鼻汁ぬぐい液	2018.01.25
インフルエンザウイルスAH1pdm09	0~4歳	男	2017.12.26	インフルエンザA型、39.4℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2018.01.25
インフルエンザウイルスAH1pdm09	10歳代	男	2017.12.08	インフルエンザA型、40.6℃、上気道炎、咳、鼻水	鼻汁	2018.01.25
インフルエンザウイルスAH3	0~4歳	女	2017.12.05	インフルエンザA型、38.4℃、上気道炎(咽頭炎)、下 気道炎(気管支炎)	鼻汁	2018.01.25
インフルエンザウイルスB (山形系統)	0~4歳	男	2017.12.22	インフルエンザB型、39.5℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2018.01.25
インフルエンザウイルスB (山形系統)	10歳代	男	2017.12.22	インフルエンザB型、38.7℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2018.01.25
インフルエンザウイルスB (山形系統)	10歳代	女	2017.12.25	インフルエンザB型、39.0℃、上気道炎	鼻汁	2018.01.25
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5~9歳	女	2017.12.26	インフルエンザB型、40.7℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2018.01.25
単純ヘルペスウイルス1型	5~9歳	男	2017.12.25	ヘルペス口内炎、38.6℃、口内炎(歯肉炎)、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2018.01.19
ヒトヘルペスウイルス6	0~4歳	女	2017.09.22	不明熱(突発性発疹疑い)、40.0℃、 上気道炎(咽頭炎)、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2018.01.26

○A型肝炎と診断された成人1名からA型肝炎ウイルス (HAV) が検出された。今年に入り、当所では2名のHAVの検査を行っており、いずれも遺伝子型はIAであった。A型肝炎は潜伏期間が2~6週間と長く、疫学調査等が困難であるため、遺伝子解析が重要となる。国立感染症研究所の報告によると、50歳以下のHAV抗体保有率は0%に近いことが推測されるという。また、経口感染することから、手洗いや十分な加熱調理等の予防策をとることが重要である。

📊 全国 2018 年第 3 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 3 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	309 例			
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	15 例	腸チフス 1 例
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	7 例	つつが虫病 5 例
	マラリア	2 例	レジオネラ症	17 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	11 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 29 例
	急性脳炎	24 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 15 例
	後天性免疫不全症候群	13 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 11 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	64 例	水痘 (入院例) 4 例
	梅毒	93 例	播種性クリプトコックス症	3 例	百日咳 38 例
	風しん	2 例			

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 173%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は水痘である。

インフルエンザの報告数は 256,833 人 (51.9) で前週比 196%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (22.9) の約 2.3 倍である。鹿児島県 (86.5)、宮崎県 (85.0)、福岡県 (84.0) からの報告が多く、年齢別では 10 歳未満が全体の約半数を占めている。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 8,383 人 (2.7) で前週比 141%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値 (2.1) の約 1.3 倍である。鳥取県 (8.2)、山形県 (6.4)、福井県 (5.2) からの報告が多く、年齢別では 4~6 歳が全体の約 4 割を占めている。*

過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

● 次回の感染症週報は、2 月 7 日発行となります。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2018年 第04週(01月22日～01月28日)

疾病名		第3週	第4週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	5013	3629	797	700	616	357	345	339	27	336	112
	定点あたり	84.97	61.51	49.81	70.00	88.00	71.40	69.00	56.50	13.50	56.00	56.00
RSウイルス 感染症	報告数	39	39	16	1	6	5	2	4		4	1
	定点あたり	1.08	1.08	1.60	0.17	1.50	1.67	0.67	1.00	0.00	1.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	20	23	8		1		3	9		2	
	定点あたり	0.56	0.64	0.80	0.00	0.25	0.00	1.00	2.25	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	55	53	15	5	13	3	1			13	3
	定点あたり	1.53	1.47	1.50	0.83	3.25	1.00	0.33	0.00	0.00	3.25	3.00
感染性胃腸炎	報告数	415	346	59	50	31	50	95	22	5	26	8
	定点あたり	11.53	9.61	5.90	8.33	7.75	16.67	31.67	5.50	5.00	6.50	8.00
水痘	報告数	14	6	2	2				1		1	
	定点あたり	0.39	0.17	0.20	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	17	31	25	2		3		1			
	定点あたり	0.47	0.86	2.50	0.33	0.00	1.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数		3	2					1			
	定点あたり	0.00	0.08	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	19	27	13	3	4	2				5	
	定点あたり	0.53	0.75	1.30	0.50	1.00	0.67	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	15	22			1	20				1	
	定点あたり	0.42	0.61	0.00	0.00	0.25	6.67	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	8	14	12	1	1						
	定点あたり	1.33	2.33	4.00	0.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～4週)

2類感染症	結核	17例(5)			
4類感染症	A型肝炎	4例(2)	つつが虫病	1例	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例(2)	侵襲性肺炎球菌感染症	8例(4)	播種性クリプトコックス症
	百日咳	4例(2)			1例(1)

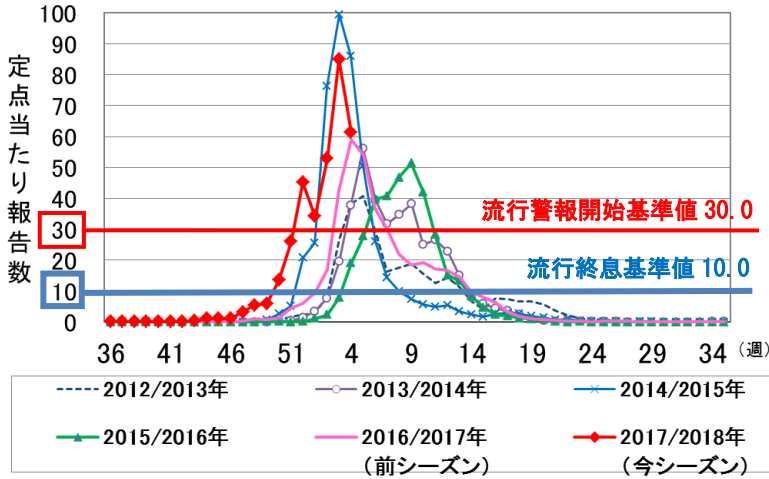
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報 《県内第4週、全国第3週（再掲）》

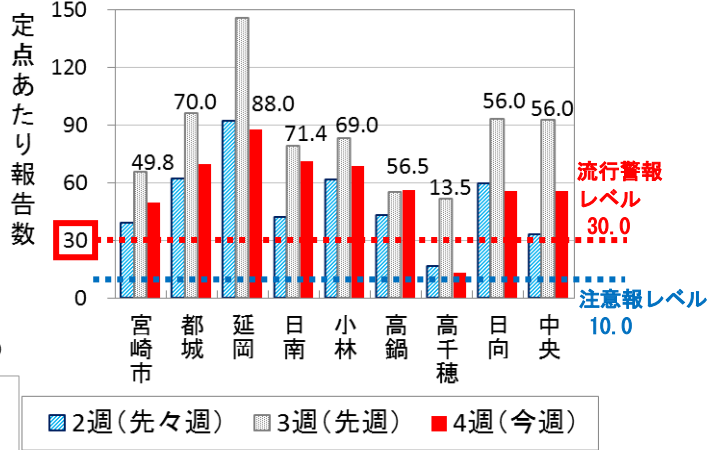
□ 県内第4週インフルエンザ発生動向

第4週（2018年1月22日～1月28日）は3,629人（61.5）の報告があった。前週の約0.7倍と減少したが、例年同時期の定点あたり平均値*（44.4）の約1.4倍であった（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の20%、5-9歳が34%、10-14歳が20%、15-19歳が5%、20-59歳が14%、60歳以上が7%を占めている（図3）。

（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）

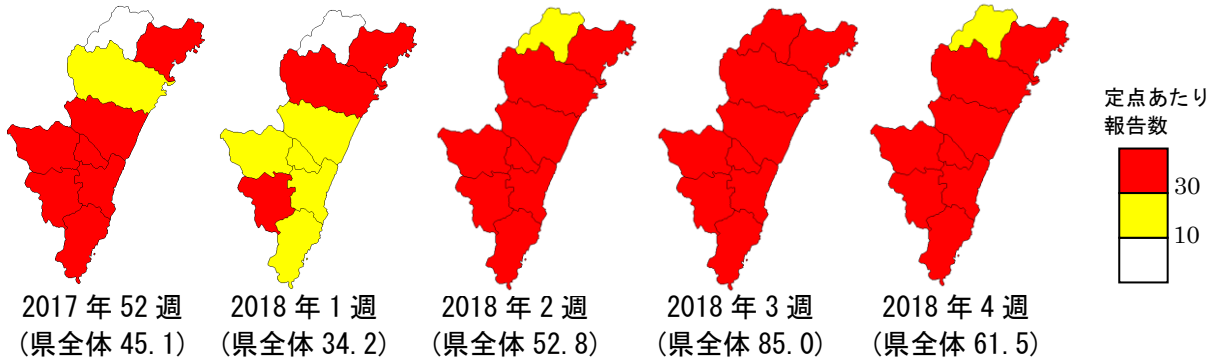


（図3）年齢群別割合の推移（2017年第52週～2018年第4週）

52週 2,663人	21%	39%	17%	3%	16%	4%
1週 2,016人	23%	22%	11%	4%	31%	9%
2週 3,117人	24%	25%	15%	5%	23%	8%
3週 5,013人	21%	34%	19%	4%	15%	7%
4週 3,629人	20%	34%	20%	5%	14%	7%

5歳未満
 5～9歳
 10～14歳
 15～19歳
 20～59歳
 60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2017年第52週～2018年第4週



□ 全国第3週インフルエンザ発生動向

第3週（2018年1月15日～1月21日）は256,833人（51.9）で前週の約2.0倍と増加した。鹿児島県（86.5）、宮崎県（85.0）、福岡県（84.0）からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の17%、5-9歳が33%、10-14歳が19%、15-19歳が5%、20-59歳が19%、60歳以上が7%である。